

# 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校

## 「岐阜市のいじめ対策の成果と課題」

令和7年5月22日  
岐阜市教育委員会事務局  
学校安全支援課

## Contents

1. 岐阜市教育大綱といじめ対策
2. これまでの取組と子どもの変容
3. 取組からみえてきた課題
4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

## Contents

1. 岐阜市教育大綱といじめ対策
2. これまでの取組と子どもの変容
3. 取組からみえてきた課題
4. 誰もが価値ある大切な存在として認められるづくり

# 1 岐阜市教育大綱といじめ対策

R1

いじめ重大  
事態の発生

R2

いじめ防止対策  
推進条例施行

教育大綱改定



## 前文

(前文の一部抜粋)

いじめは、いつ、どこでも、誰にでも起こり得るものと言われています。こうした悲劇を二度と繰り返さない、子どもたちが安心して学びに向かうことができる教育環境を作することは、市、学校にとどまらず、**全ての市民の責務**です。

私たちは、**命の尊厳**を改めて理解し、**お互いを大切に**する社会を今一度作り上げるため、いじめ問題の克服に向けて取り組む必要があります。私たちは、大変重い教訓を得ました。この生徒の死を**決して忘れることなく心に刻み、常に当事者意識を持ち、私たち一人ひとりができること、やるべきことを行っていかなければなりません**。そうした決意の下、ここに、いじめ防止の基本理念を明らかにし、いじめの防止のための施策を推進するため、本条例を定めるものとします。

GIFU CITY



## 岐阜市教育大綱

### 基本方針

学校・家庭・地域の誰もが**生命の尊厳を理解**し、互いに心を開く対話を重ね、**一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育**を推進する

#### 基本方針に込めた想い

私たちが、さまざまな人と関わりながら、より良い人生、幸せな人生を生きていくためには、**生命の尊厳を理解**することを前提とし、互いに心を開く対話を重ねる中で、**一人ひとりが互いを価値ある大切な存在として認め合う**ことが必要です。

**生命の尊厳への理解**とは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに応えようとする心の表れを言います。生命の尊厳への理解が必要とされるのは、社会生活における人との関わりが、命あるものとの関わりだからです。自身についての生命の尊厳を考え、生きることのすばらしさに深く思いを寄せることにより、他者の生命の尊厳、人としての尊厳を理解することができるようになります。

人は皆、自由、つまり、自らの責任のもとで行う選択と行動によって、一人ひとりがかけがえのない人生を生きています。その中で、自己を認識し、他者とのより良い関係を築きながら生きるためには、自らと他者、両者の生命の尊厳を理解し、それぞれの選択と行動について互いに承認し合う「**自由の相互承認**」の考え方が必要であり、**自由の相互承認の態度を高めること、すなわち一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合うこと**で、それぞれが自らの選択と行動によって生きる社会を実現することができると考えます。

本市は、こうした想いを込めて基本方針を定めました。この基本方針を本市教育の礎とし、子どもとその教育に関わるすべての当事者が、生命の尊厳への理解を深める中で、誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちが、自らの才能を開花させ、幸せな未来をつくり出すための力を培う教育を推進し、さらなる教育立市の深化を目指していきます。

### 基本方針に基づくそれぞれの目指す姿

#### 目指す子どもの姿

すべての子どもが安全・安心な環境の中で、他者との協働・信頼を通じ、**自己を認識し、自らの選択と行動によって**  
**幸せな未来をつくり出せる力を育む**

#### ▶実現の方策・姿勢

- ・生命の尊厳や人間関係の深い学びの実践
- ・子どもを主体とした、探究を核とする自律的学びの充実
- ・学校形態・学び方の多様化

#### 目指す学校・教職員の姿

教職員が高い専門性を発揮しつつ、チームとして子どもと向き合い続け、**子どもも教職員もいきいきとチャレンジできる**  
**信頼感に支えられた温かい対話と空間のある学校をつくる**

#### ▶実現の方策・姿勢

- ・子どもと教職員、教職員同士の対話に基づく相互信頼の確立
- ・教職員がより深く子どもと向き合うための学校業務改革の推進
- ・教職員の資質・能力向上に資する人材育成の充実
- ・教育委員会の学校支援機能等の強化

#### 目指す家庭・地域の姿

保護者や地域住民がコミュニティ・スクールなどの多様な地域資源を活かし、**大人も子どもも学び・語り・支え合う、**  
**持続可能な教育のまちを創造する**

#### ▶実現の方策・姿勢

- ・教育における家庭・地域の役割と責任に対する意識の向上
- ・学校と地域をつなぐコミュニティ・スクールの深化
- ・地域におけるサードプレイスの充実
- ・多様な地域資源を生かした学びの場や機会の創出

### 成果の検証

総合教育会議において定期的に関連施策の成果を検証する。

## 「誰もが価値ある大切な存在として認められる学校」の具現に向けて

### 学校におけるこれまでの主な実践

#### 生命の尊厳の理解

○「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」  
などを学ぶ

○岐阜市の12の人権課題について知る

○他者との関わりについて学ぶ

○かけがえのない自他の命を守る

心を開く  
対話

道徳科  
道徳教育

人権教育

特別活動

総合的な学習  
の時間

一人ひとりが価値ある大切な存在  
として互いに認め合う

○「親切・思いやり」「友情・信頼」  
「相互理解・寛容」などを学ぶ

○子どもの人権感覚を高める関連的指導  
と常時指導

○児童会生徒会活動・縦割り活動の充実

○岐阜市の「人・もの・こと」から  
リアルに学ぶ

いじめが起きにくい  
学校風土の醸成

いじめ対策

いじめ重大事態を  
風化させない組織

## いじめが起きにくい学校風土の醸成 いじめ重大事態を風化させない組織

### ①いじめ対策監の配置



- ▶いじめ発生時に、いじめ対策チームを招集し、対応に当たる
- ▶校内を巡回し、子どもたちに声をかけ、実態を把握する

子どもと教職員の対話に基づく相互信頼の確立

### ②主任いじめ対策監の配置



- ▶学校を巡回し、各校のいじめ対策の在り方について助言をする
- ▶いじめ対策監研修会において、講師を務め、教職員の資質向上を図る。

教職員がより深く子どもたちと向き合うための学校業務改革の推進

### ③教員研修



- ▶事案を風化させないための組織づくり
- ▶校長・教頭研修
- ▶いじめ対策監研修
- ▶生徒指導主事研修など

教職員の資質向上

## いじめが起きにくい学校風土の醸成 いじめ重大事態を風化させない組織

### ④岐阜市生徒会サミット



いじめ克服に向けた思いや取組を交流し、自校を見つめ直す  
いじめ克服の思いを広げる方法を明確にする

### ⑤7月3日いじめについて考える日

### ⑥毎月3日いじめを見逃さない日



### 中学校から小学校への活動の広がり

中学校から小学校へ活動報告 小学校での活動を全校へ周知 学年ごとに個人の行動目標を設定

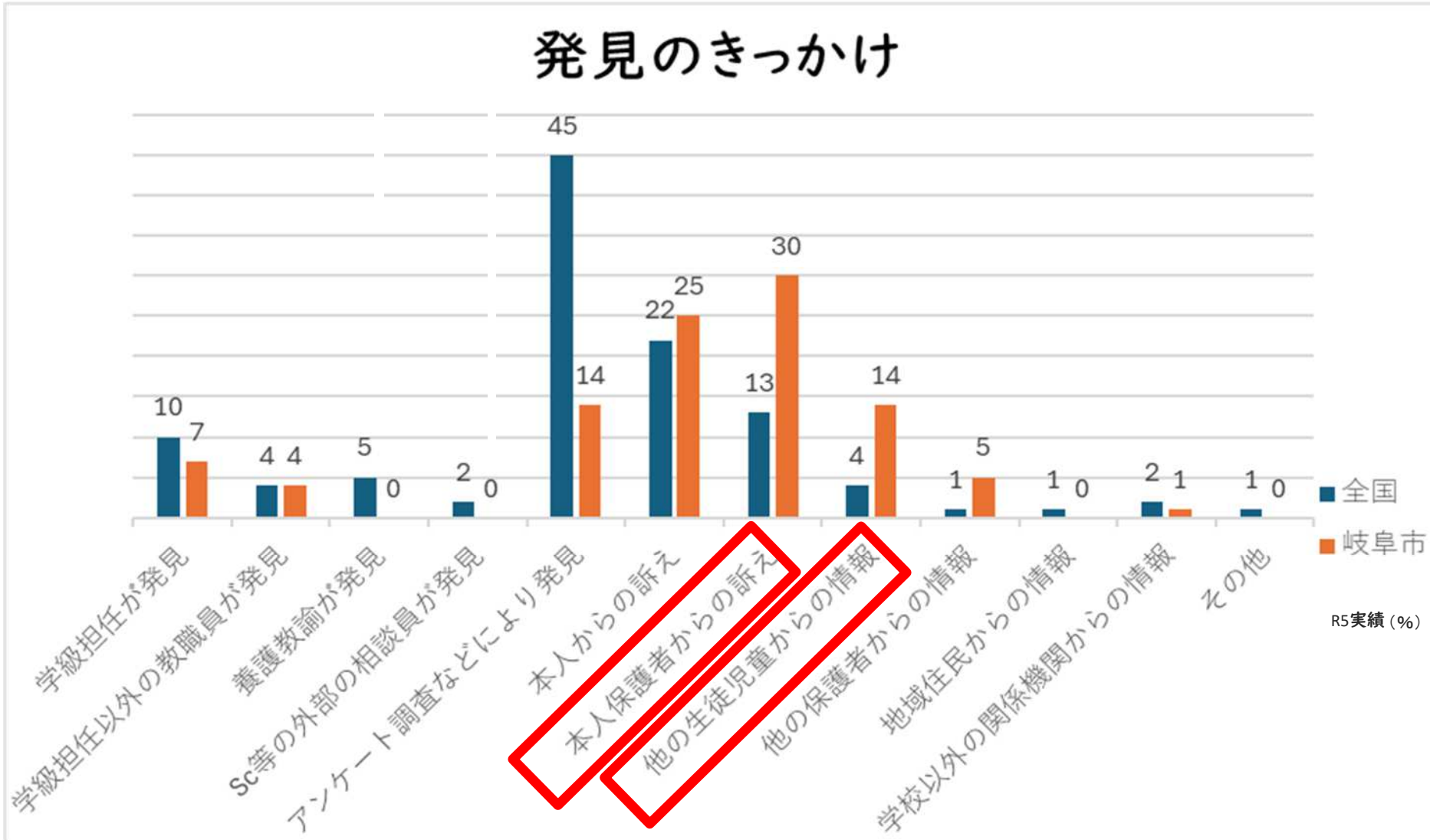


自己を認識し、自らの選択と行動によって幸せな未来をつくり出せる力を育む

## Contents

1. 岐阜市教育大綱といじめ対策
- 2. これまでの取組と子どもの変容**
3. 取組からみえてきた課題
4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

2 これまでの取組と子どもの変容



いじめ対策が浸透し、本人や保護者、他の児童生徒からも情報があがりやすい傾向にある

### 生徒会サミット参加者の意識の変容

**R4**

(生徒たちの声)

- ・岐阜市全体でいじめ問題に取り組みたい
- ・認め合える仲間関係を築きたい

いじめを問題として認識  
自分を主体とした発言

**R5**

(生徒たちの声)

- ・一人ひとりがいじめの克服に向けた思いをもち、いじめと向き合っていきたい

いじめ防止の前提を理解  
誰もが当事者になりうる自覚

**R6**

(生徒たちの声)

- ・相手に関心をもち、積極的に関わることで、分かり合い、互いのよさや違いを受け入れる心をもちたい。

他者の価値を理解  
周囲の仲間と共に支えあう

**相互承認や生命の尊厳の理解が着実に定着**

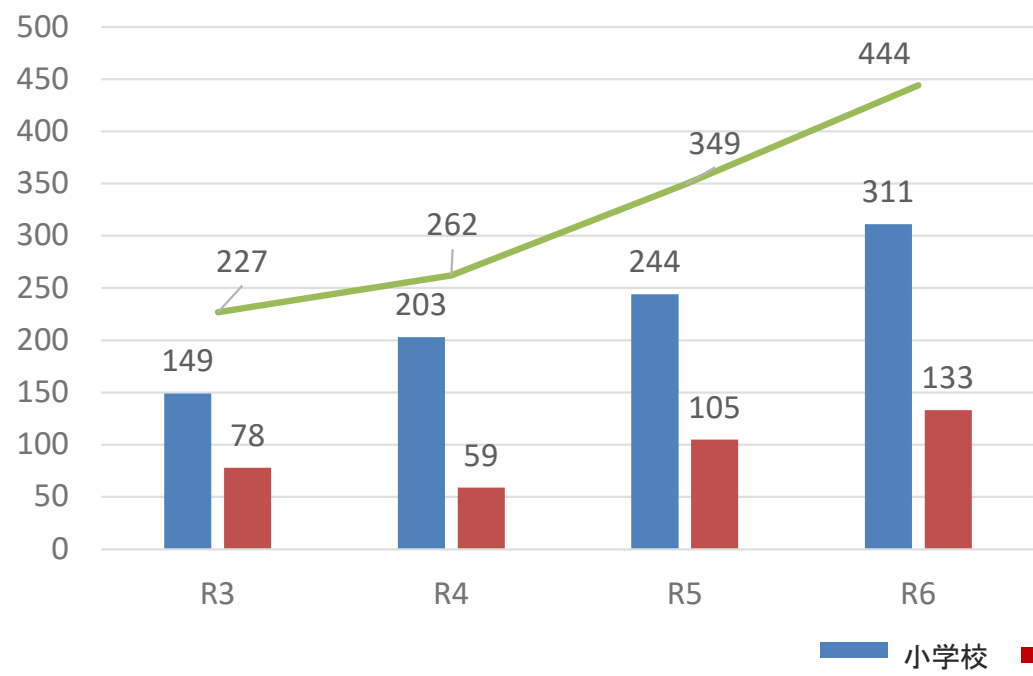


## Contents

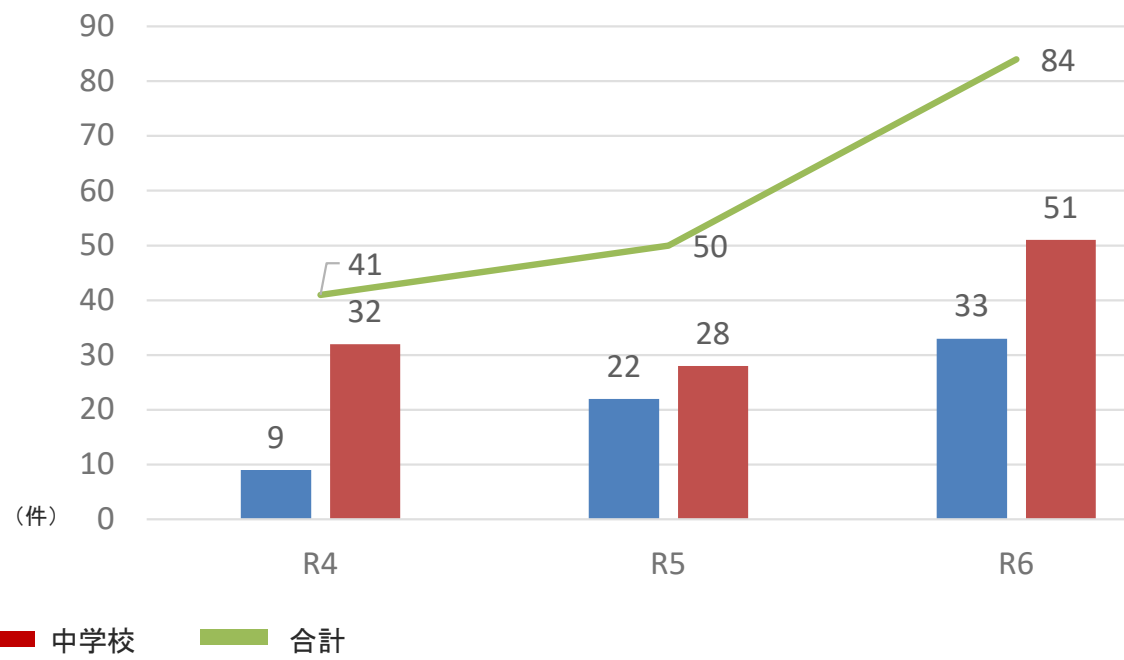
1. 岐阜市教育大綱といじめ対策
2. これまでの取組と子どもの変容
- 3. 取組からみえてきた課題**
4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

問題行動の発生状況

暴力行為



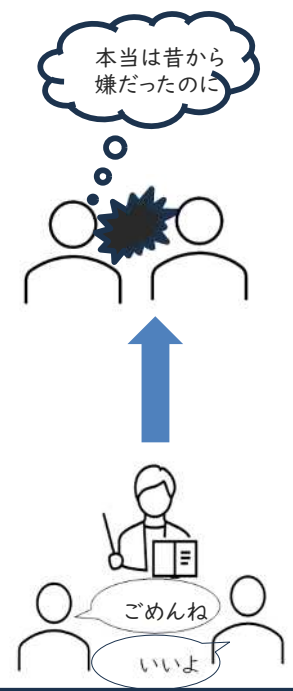
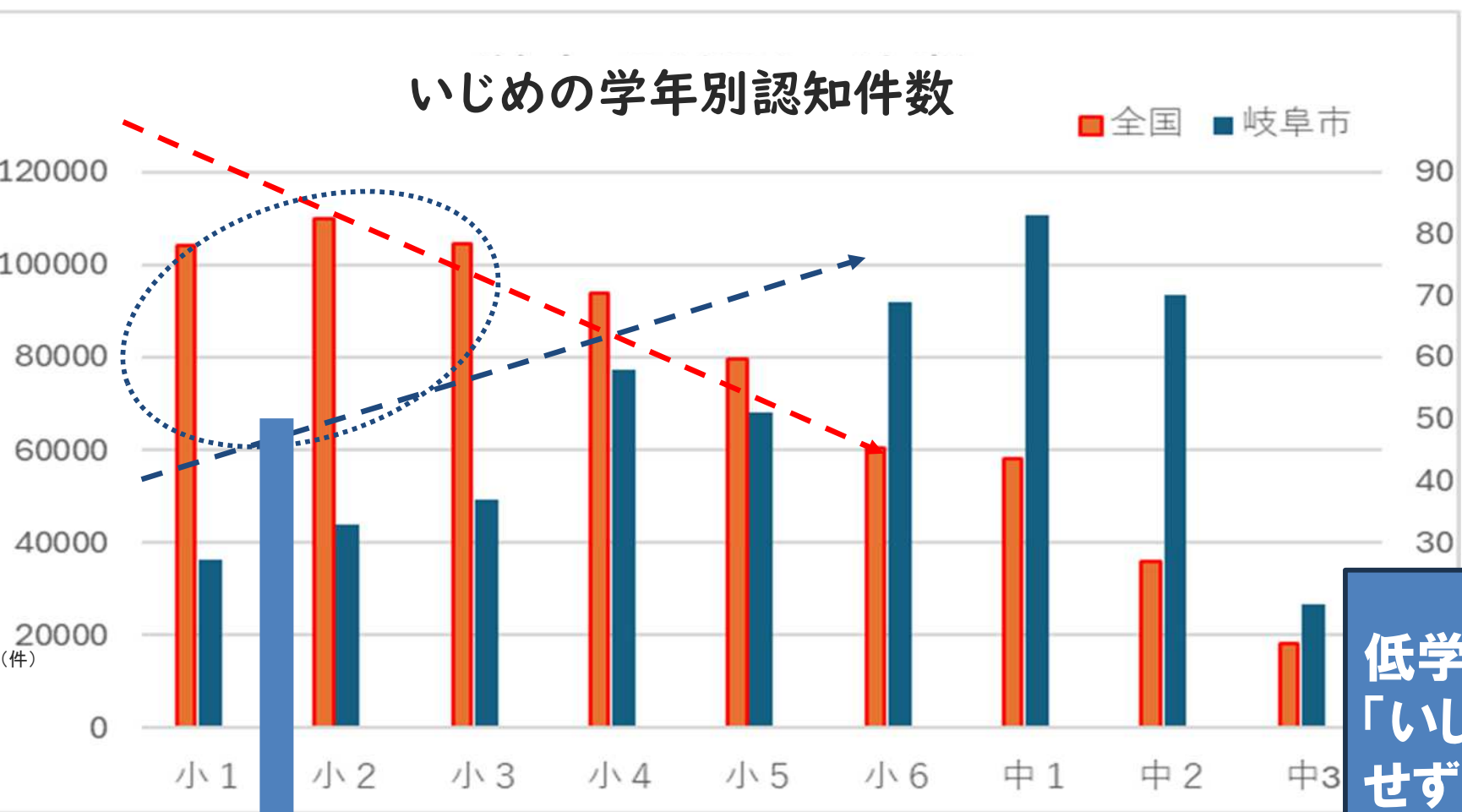
SNSトラブル



いじめ＝ダメという認識が深まる一方  
自己コントロール・他者理解ができていないのでは

行為の背景に迫る指導・見届け  
ができていないのでは

3 取組からみえてきた課題



低学年のトラブルを「いじめ」として認知せず、「ごめんなさい」「いいよ」で解決したと思い込んでいないか

低学年時に「皆が同じ考えをもっているわけではない」という認識をもつ機会が少ないのでは



## 暴力行為等の問題行動は増加傾向

- 小学校高学年から中学生にかけていじめの認知件数が増加。
- 問題行動は小学校から増加傾向が続く。
- **低学年では「トラブル」として扱い、「謝罪」のみの指導**となっていないか。(低学年時の「トラブル」が尾を引き、解決されていない)



## 自己肯定感と相互承認の不足

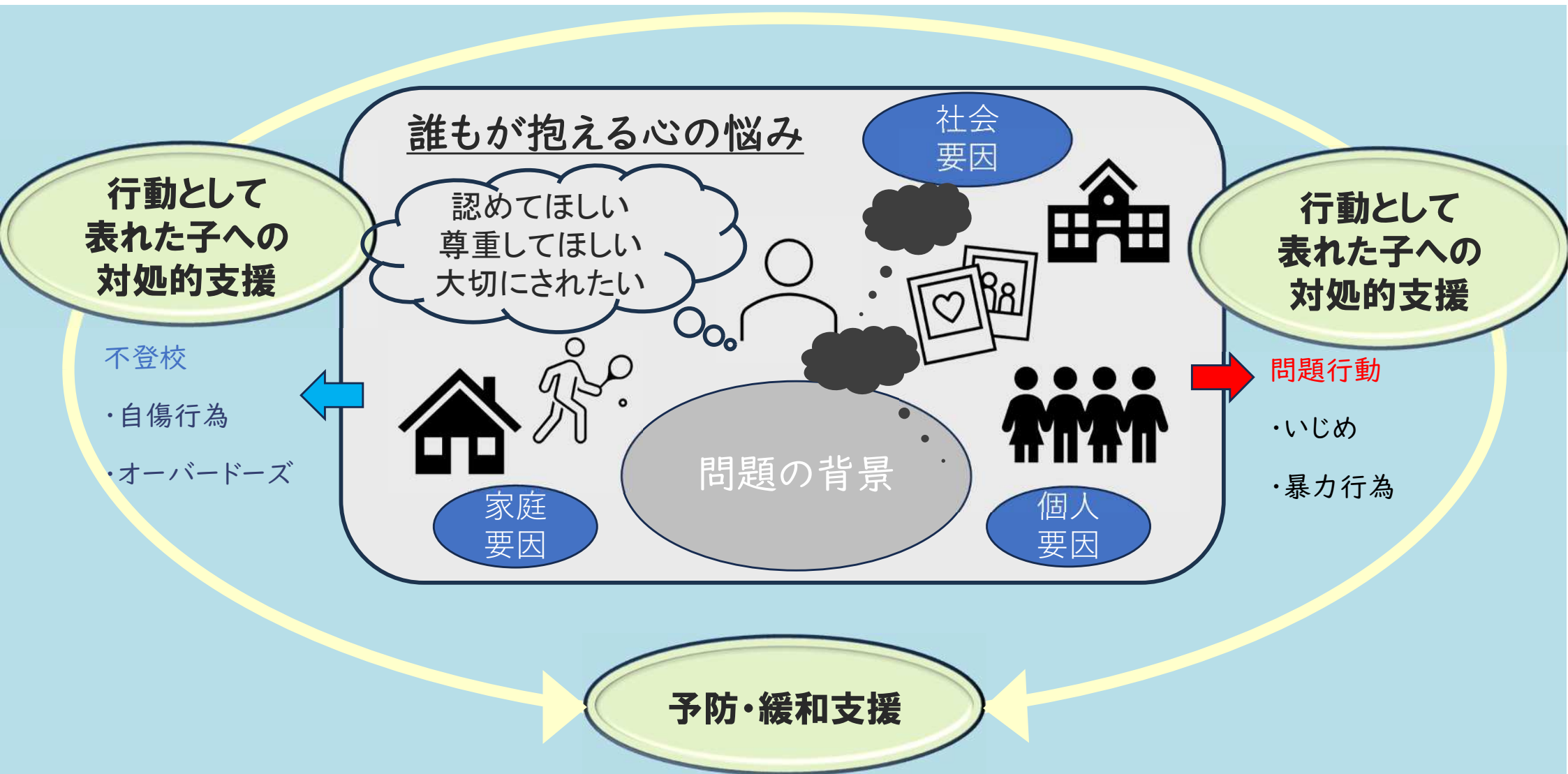
- 子どもたちが**自分自身を否定的に捉える**要因となっていないか。  
(自分の長所や価値を認められなかったり、他者からの批判やそうした言葉に敏感になり、自分を否定されたと感じたりしているのではないか)
- 低学年時に相手とどう解決したいのかを考える機会が少なく、子どもたちが**「相手を尊重する」**というところまで高まっていないのではないか。

## Contents

1. 岐阜市教育大綱といじめ対策
2. これまでの取組と子どもの変容
3. 取組からみえてきた課題
4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

#### 4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

いじめや問題行動を通して、子ども一人ひとりの心の在り様をとらえる



いじめ対策監を中心とした教職員の役割→包括的な支援

岐阜市教育大綱の理念を実現するためには

生命の尊厳の理解

学校風土への浸透

子どもの自己肯定感の向上  
自由の相互承認の感度の高まり

アンテナの高い教師

予防・緩和的対応による未然防止  
安心できる居場所づくり

事案への適切な組織対応

問題の背景をつかむ根本的対応  
子どものとの信頼関係の構築

いじめ対策監を中心とした包括的な支援

- ・自分らしさが発揮でき、認められる
- ・互いの個性や多様性を受け入れる
- ・相手と認め合い行動できる

- ・いじめの定義に基づく高いアンテナ
- ・情報連携・役割連携による児童生徒理解
- ・他者との関係性の支援・見届け

- ・普段との違いを察知し心の声を聞く鋭い感性
- ・「相談すれば絶対に守ってもらえる」組織的な対応
- ・いじめに至った背景を考慮した指導

#### 4. 誰もが価値ある大切な存在として認められる学校づくり

●本日は、主に以下の事項についてご協議いただきたい

- ・誰もが価値ある大切な存在として認められる学校にするためにさらに取り組むべきことは